

【「飛島村教育委員会に関する点検と評価」意見聴取会のまとめ】

1 教育委員会の取り組みについて

- (1) 平和意識の高揚、国際交流の推進があり、大事なことであり、時代の流れを感じる。「飛島村民憲章」の中に、ぜひ国際的な観点を入れるとよい。
- (2) 教育懇談会では、教育委員会制度の変更や他の教育委員会の動向を頭に置いて、広い視野で学校をリードしてほしい。また、海部南部教育委員会では、できる限り今日的な課題を共有し、対策についての意見交換、解決策を考えていただけるとよい。

2 学校教育の取り組みについて

- (1) A L T、英語教室、ホームスティランゲージは、成果も上がっている。
2021 年から大学入学希望者の学力評価テストが変わる。先を見通した英語教育のあり方を考えるとよい。また、現在、飛島村では、小学校における外国語活動の充実にあたって、外国人の配置等、環境整備も行っているので、積極的に発信をしてほしい。
- (2) 小中一貫教育では、実践を重ね、9年間の学びの連続というものをまとめていただけるとよい。同時に、教員の指導体制についても小中の先生が力を合わせて有効なものをまとめて情報発信するとよい。また、一部教科担任制では、質の高い学びを保証するということが大事だが、教員の多忙化に繋がれば別問題になる。できる範囲で行うことも大事である。
- (3) いじめ・不登校はいつでも起こりうるという目で見えていくとよい。Q-U 検査、スクールカウンセラーの配置は、早期発見、予防という面で効果がある。学びのセーフティネットを考えたときに、関係機関とのパイプ役としてソーシャルワーカーの配置も検討されるとよい。
- (4) 村雇用の非常勤講師、スキルアップの講師の配置は、子どもたちの基礎学力の向上、先生の指導力アップ等、成果があると思う。しかし、学力を点数のアップにだけとられるのではなく、学習に取り組む情緒的な面の変化を見ていってほしい。
- (5) 不審者情報が27年度は多かったが、28年度はない。どんな取り組みをしたか。

3 生涯教育の取り組みについて

- (1) お父さん方の教育、育児・家事への参加を促していくという啓発活動を今後も進めていただけるとよい。
- (2) 戦争の悲惨さが風化されないように子どもたちに教育をしていってほしい。
- (3) 生涯学習の推進委員、スポーツ推進委員、食生活改善の推進委員が、合同で情報交換をし、何ができるか、また、一緒に取り組むことはできるか考えていくとよい。また、体育協会、スポーツ少年団、体育協会育成クラブ、スポーツクラブとびしま、4つの組織がある。役員は兼ねたり、内容も重複していたりするのではないか。そういうことを解消するため、統括するようなものは必要ないか。学校でも部活動のあり方が問題になっている。子どもたちの受け皿として、社会体育・社会スポーツを考えていかななくてはいけない。
- (4) 文化の伝承について、クラブ・部活動に入っているが、学校のカリキュラムに入れるのも一つの策である。報道関係の活用も効果がある。新学習指導要領では、何ができるようになるかを把握し教えなくてはいけない。子どもたちが発想をもって計画し、実行できる場として文化事業は有効である。
- (5) 南種子町との交流は、勉強、カリキュラムの編成、行事等にも取り入れ、成功させてほしい。
- (6) 愛知万博駅伝では、いつも選手選別に苦労しているので、年齢枠を緩和する等していただくとよい。
- (7) 温水プールの利用について、これからも村外の方を幅広く受け入れしていただけるとよい。学園の水泳授業も温水プールで行い、水泳能力もアップしている。今後も引き続き活動を期待する。
- (8) 図書館利用の様々な取り組み、他地区の方の利用等、成果が出ている。歴史的価値のあるものについては、歴史を風化させない、先人の苦勞を知るものとして収集・保管をお願いしたい。飛島の将来像を描く参考になるのではないかと思う。
- (9) 中学生の海外派遣、国際交流事業では、成果が出ているが、取り組みの基本を忘れず発展させてほしい。国際感覚を養い、国際的視野を広げ、その

先に友好関係・相互協力がある。郷土を愛するというのは、純粹に互いの理解・尊重であり、飛島村の将来を真剣に考える子を育成していただきたい。

- (9) 地域、住民、保護者、生徒が、どのような要望を出しているのか、満足しているのか、そういう声等もあげて施策に活かして欲しい。

【点検評価委員（2名）】

- ・伊藤 勝康 氏 元名古屋女子大学 文学部 講師
- ・溝口 哲夫 氏 名古屋芸術大学 人間発達学部 准教授